

「鯖江市の魅力を感じ、伝える」

政治経済学部 郡山琴美（鯖江）

2016.2.18

まず、私がこの学生派遣プログラムに参加するきっかけとなったのは、大学での教養演習の学びだった。地場産業を活かした地域活性化のモデルを調査していると、地域活性化に関する本の中で福井県鯖江市の事例が挙げられていた。めがね・漆器・繊維の三大地場産業を活かし、県内でも人口増加率が一番だといわれている鯖江市。このような自治体を取材し、新たに抱える問題点について、学生の立場から政策提言ができるという事で本プログラムに興味を持った。また、現地での活動だけにとどまらず、東京でふるさと応援隊として地域のPR活動も実施することで、長期的な取り組みが期待できた。

今回のプログラムでは、『移住・定住施策について。若者が住みたくなる・住み続けたいとなるまちづくり』が課題として挙げられた。事前調査を踏まえ、現地では3泊4日の取材・調査及び熟議を行い、最終日には成果発表を実施した。また、後日東京（上野）でふるさと応援隊としての鯖江市のPR活動を行った。これらの活動を通じて、私が特に印象に残った点を2点挙げたいと思う。

まず、1つ目は鯖江市の地場産業がまちづくりの一つとして活かされている点だ。「めがねのまちさばえ」としてまちの中ではめがねがシンボルとして掲げられ、実際に現地では、私も漆器の蒔絵体験を行ったが、職人技を要する技術力に圧倒された。同時に、河和田の町には漆器工房が連なっており、ものづくりを象徴する街並みに心を打たれた。また、東京でふるさと応援隊として鯖江市のものづくりをPRした際にもめがね・漆器・織物の各体験ブースでは日本人はもちろん、外国人が立ち寄る姿も見られた。このように、鯖江市独自のものづくり産業を産地の枠を超えて発信していくことで、より多くの人に知らしめることができるのだと感じた。また、私たちが実際に現地へ赴き、鯖江市の魅力を感じた上でPR活動を行うことに意義があるように思えた。東京にいるだけではわからない、実際に現地へ足を運ぶことでさらに鯖江の良さをPRすることができたのではないかと思う。

また、2つ目として、鯖江市では人の温かさが感じられた。これは、鯖江市のまちづくりからきているのではないかと思う。私が驚いたことの一つに、鯖江市のまちづくりには、行政を担う職員の方々だけでなく、地元の高校生もJK課としてまちづくりに関わっているというところがある。住民一体型のまちづくりが行われることで、人のつながりが強くなっているのだと感じた。

学生派遣を終え、東京に戻ってきてからも鯖江市の施策が様々な形で紹介されているのを目にする。先日も、鯖江市のお試し移住・ゆるい移住がメディアで取り上げられていた。国を主体とし、人口減少に対する地方創生事業が各地域で進められている現在、鯖江市はその先端を行く自治体として今後さらに注目が集まるのではないかと思う。私自身もそのうちの1人として鯖江市を応援していきたい。